

認知症とともに あたたかいまちづくり会議

とき

令和4年6月20日(月)
14:00~16:00

ところ

戸田市役所
5階大会議室ABC

講演

オレンジ大使の「これでいいのだ」
～若年性認知症になっても挑戦しつづける私～

埼玉県オレンジ大使 渡邊 雅徳 氏

一講演内容一

当事者としての
気になったこと
就職活動について
現在の仕事について
これから挑戦して
みたいこと

ほか

渡邊 雅徳(わたなべ・まさのり)

1977年、鳥取生まれ。会社員として勤務していた40歳の時に、若年性認知症と診断される。発症後は、若年性認知症の人と家族を対象にしたカフェ「リンカフェ」の運営に携わるほか、作業療法士にすすめられた打楽器のカホンに挑戦し、バンド活動にも参加している。2021年9月から認知症の普及啓発を担う「埼玉県オレンジ大使」として活動。講演活動等に精力的に取り組んでいる。前職の退職後、就職活動を経て、現在は人材関連企業に勤務。



講演

介護家族から伝えたいこと

公益財団法人認知症の人と家族の会
埼玉県支部 副代表 森本 剛 氏

一講演内容一

家族としての思い
認知症の人を
「個」として捉える
確定診断前の空白
の期間について
本人と一緒にできる
ことの共有

ほか

森本 剛(もりもと・つよし)

認知症の人と家族の会埼玉県支部副代表。自身も若年性認知症の父の介護経験を持つ。地元人間市での家族会の立ち上げをはじめ、講演活動、当事者や家族の集いの場の運営等に精力的に取り組む。



講演

認知症の共生に向けた取組

株式会社日本総合研究所
コンサルタント 高橋 光進 氏

一講演内容一

官民連携による
取組の必要性
認知症「共生」
に向けた民間企
業の取組事例

ほか

高橋光進(たかはし・みつゆき)

株式会社日本総合研究所所属コンサルタント。認知症施策等に関する研究事業等の官公庁案件のほか、シニア向けサービス開発等の民間案件に従事。



ワークショップ

「立場を超えての情報提供と事例検討」

自己紹介

講演を聞いての感想共有

自分・職場の体験談

(認知症の人と接した体験など)

事例検討

代表グループによる発表

講評

事例検討内容

【事例】

若年性認知症であることをカミングアウトしているAさんが、困った様子で予定表の書かれたホワイトボードを見ている。ホワイトボードの予定表に書かれている「会議」が何の会議かわからず困っているとのことであったため、先週の会議の続きであることを伝えたが、Aさんは依然として困っている様子である。

【検討内容】

このときAさんはどのような気持ちか、何に困っていると思いますか？
この場に居合わせたら、あなたには何ができると思いますか？